

浦沢直樹作品におけるブラック・ジャックの影響

文藻外語學院日本語文系
助理教授 小高裕次

1.はじめに

本発表の目的は、浦沢直樹のマンガ作品が、手塚治虫が作り出したキャラクターであるブラック・ジャックから受けた影響と、その影響から脱出していく過程について明らかにすることである。

「キャラクターの古典化」という用語は二つの内容を包含しているのではないかと筆者は考えている。一つ目の概念は、一つのキャラクターが世代を超えて未永く愛されるという意味での「キャラクターの古典化」である。1928年、アニメーション映画『蒸気船ウィリー』で人気を博して以来、80年後の現在でもいまだに根強い人気を誇るミッキーマウスや、1951年『アトム大使』に登場し、その後日本アニメを世界中に知らしめることになった鉄腕アトムなどがそのよい例である。

二つ目の概念は、あるキャラクターが後の作品に対して大きな影響を与え、多くの模倣者を生み出すという意味での「キャラクターの古典化」である。本発表で取り上げるブラックジャックがまさにその典型的な例である。

2.ブラック・ジャック

2.1.ブラック・ジャックについて

ブラック・ジャックは、1973年から1983年まで『週刊少年チャンピオン』に連載された、手塚治虫による同名の作品の主人公である。同作品は二度にわたってテレビアニメ化され、OVA・劇場アニメも制作されている。文藻外語學院で発表者が担当している「マンガ概論」「アニメ概論」の受講生が挙げる好きなマンガ・アニメで毎回ベスト10に入るほど時代や国境を越えて愛されているという点では、上述した第一の概念における「古典」としての資格を十分に備えた作品である。しかし、後の作品に大きな影響を与え、多くの「息子たち」を生み出したという点で、第二の概念における「古典」の側面を強調すべき作品でもある。

『ブラック・ジャック』は一話完結が基本で、各エピソードの内容はおおむね次のような共通点を持つ。モグリの天才外科医であるブラック・ジャックは、高額の報酬で難病を持つ患者の治療を引き受ける。多くの場合依頼人は病気とは別の悩み事を抱えており、ブラック・ジャックに相談を持ちかけるが、ブラック・ジャックは「治療以外のことは自分には関係ない」と患者と医師以上のつきあいを拒否する。しかし、治療が終わ

ると同時に、ブラック・ジャックの直接的・間接的関与により、依頼人の問題も解決する。

2.2.ブラック・ジャックが与えた影響

ブラック・ジャックの影響を大きく受けたキャラクターとして最もわかりやすい例は、『ザ・シェフ』の主人公・味沢匠であろう。

『ザ・シェフ』は、剣名舞原作・加藤唯史作画による漫画作品である。1985年から『週刊漫画ゴラク』で連載された。単行本は全41巻で、最終巻は1994年に発行されている。また、2004年からは続編『ザ・シェフ～新章～』が『別冊漫画ゴラク』で連載されている。単行本は2008年4月現在で第14巻まで発行されている。

『ザ・シェフ』は一話完結が基本で、各エピソードの展開は『ブラックジャック』に準じている。天才的フランス料理人である味沢匠は、自分の店を持たず依頼人の元へ赴き高額報酬で料理を作る。多くの場合依頼人は悩み事を抱えており、味沢に相談を持ちかけるが、味沢は「料理以外のことは自分には関係ない」と客と料理人以上の付き合いを拒否する。しかし、味沢が料理を作り、依頼内容を果たすと同時に、味沢の直接的・間接的関与により、依頼人の問題も解決する。

また、黒ずくめの服装、髪型や顔全体の雰囲気といった外見からも、味沢匠がブラックジャックの影響を強く受けていることが分かる。

『ザ・シェフ』のほか、初期の『美味しんぼ』（雁屋哲原作・花崎アキラ作画）にも『ブラック・ジャック』の影響が見られる。また、『ウィキペディア』では、そのほか『スーパードクター K』『K2』『Dr. 朧』『IWAMAL』『けだものドクター毒島』『コミックマスター J』『ギャラリーフェイク』『ゼロ THE MAN OF THE CREATION』『王様の仕立て屋』が同様の作品として挙げられている。

これらの作品の共通する特徴の主なものとして、以下の四点が挙げられる。

- 特徴1. 主人公は天才的スキルを持つ職人である。
- 特徴2. 主人公は依頼を受けて世界各地を放浪する。
- 特徴3. 主人公は依頼人と親密な関係になることを拒む。
- 特徴4. 主人公は本来の依頼以外の問題をも解決する。

「依頼を受けて世界各地を放浪する」「天才的スキルを持つ職人」を主人公とする漫画で、『ブラック・ジャック』よりも先に連載が開始された漫画に、『ゴルゴ13』（1968～、さいとう・たかを、『ビッグ・コミック』連載）がある。実際、『ゴルゴ13』も上記の特徴のうち特徴1.～特徴3.を満たしている。『ゴルゴ13』が『ブラック・ジャック』にどの程度影響を与えたかは現時点の筆者には分からない。しかし特徴4.は『ブラック・ジャック』には見られるが『ゴルゴ13』には見られない。これは両者の決定的な相違点である。

『ザ・シェフ』『美味しんぼ』をはじめ、『スーパードクター K』『K2』『IWAMAL』には明らかに特徴4. の存在を見て取れる。そこで、筆者はこれらの作品を『ゴルゴ 13』ではなく『ブラック・ジャック』の後継者であるとしたい。

本稿では、これら「ブラック・ジャックの息子たち」の列に、浦沢直樹の諸作品の主人公たちを付け加える。すなわち、1985 年から 2001 年までの間『ビッグコミックオリジナル』誌に続けて連載された三つの作品『パイナップル ARMY』『MASTER キートン』『MONSTER』の主人公であるジェド=毫士・平賀=キートン=太一・天馬賢三である。

3.浦沢直樹と本稿で取り上げる作品

3.1.浦沢直樹について

浦沢直樹は、1990 年代から 2000 年代にかけて最も活躍した漫画家の一人である。全 29 巻で累計 3000 万部を売り上げ現役女子柔道選手のニックネームにもなった『YAWARA』や、全 22 巻で累計 2500 万部を売り上げ実写版の映画が台湾でも公開された『20 世紀少年』など、多数のヒット作品を生み出している。

3.2.本稿で取り上げる作品

3.2.1 『パイナップル ARMY』

『パイナップル ARMY』は、1985 年から 1988 年まで『ビッグコミックオリジナル』で連載された、工藤かずや原作・浦沢直樹作画による作品である。この作品は浦沢の初めての連載作品である。単行本は全 8 巻が刊行された。

基本は一話完結で、ベトナム戦争や世界各地の戦線で活躍した元傭兵の日系アメリカ人・ジェド=毫士が、民間軍事顧問機関・CMA の戦闘インストラクターとして、様々な事情で警察などに頼れない人々に身の守り方や戦闘の技術を教える、というのが毎回の内容の大筋である。

冷戦下での東西陣営の攻防、テロリズムとの戦い、各地で勃発する地域紛争など、1970 年代から 1980 年代の世界情勢を背景に、様々な兵器についての蘊蓄が紹介され、20 代から 30 代にかけての男性読者の強い支持を得た。

3.2.2 『MASTER キートン』

『MASTER キートン』は、1988 から 1994 年まで『ビッグコミックオリジナル』で連載された、勝鹿北星原作・浦沢直樹作画による作品である。単行本は全 18 巻が刊行された。1998 年には日本テレビ系列でアニメ化もされている。

一話完結で、イギリスの保険会社ロイズの調査員・平賀=キートン=太一が、依頼を受けて事件を調査し解決していくというのが基本的なストーリーである。平賀=キートン=太一は日本人動物学者の父とイギリス人の母を持ち、英オックスフォード大学で高校学の修士号を取得した後、英空軍に志願入隊し空軍特殊部隊 SAS で活躍、その後 SAS

のサバイバル術の教官をしていたこともあるという変わった経歴を持つ、という設定で、事件解決の際には彼の持つ幅広い知識が活かされる。

冷戦終結後の世界情勢を背景に軍事的な蘊蓄が紹介されるという『パイナップル ARMY』の路線を引き継ぎ、さらに考古学や文化人類学・民俗学といった学問的要素も付け加えられたため、『MASTER キートン』は『パイナップル ARMY』よりもストーリーに広がりを見せている。読者層はやはり 20 代から 30 代の男性が中心であった。

3.2.3 『MONSTER』

『MONSTER』は、1994 年から 2001 年まで『ビッグコミックオリジナル』で連載された。原作者はない。単行本は全 18 巻刊行されている。1997 年に第 1 回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞、1999 年に第 3 回手塚治虫文化賞マンガ大賞、2000 年に第 46 回小学館漫画賞を受賞している。

『MONSTER』は上述の作品とは異なり、連続ものである。ドイツ・アイスラー記念病院に勤務していた天才外科医・天馬賢三は、頭部を銃で撃ち抜かれたヨハンという名の少年を緊急手術で救出するが、後に稀代の殺人鬼に成長したヨハンに殺人の濡れ衣を着せられたため、ドイツ・チェコを逃亡しながらヨハンの大量殺人計画を阻止するために彼の抹殺を試みる、というのがあらすじである。

ベルリンの壁崩壊後のドイツの混乱と旧東ドイツの暗部を背景に、犯罪予備軍の真理に巧みにつけ込み思いのままに操るヨハンという悪のカリスマが形成されていく過程を追う謎解きが、アメリカ映画『ツイン・ピークス』や『羊たちの沈黙』で盛り上がっていたサイコ・サスペンスブームにうまく乗り、『MONSTER』は幅広い読者層からの支持を受け、単行本は累計 2000 万部以上を売り上げた

4. 浦沢直樹作品における手塚治虫の影響

4.1. 『パイナップル ARMY』『MASTER キートン』と『ゴルゴ 13』

『パイナップル ARMY』『MASTER キートン』については、『ゴルゴ 13』からの影響を指摘する意見もある。また、『パイナップル ARMY』原作者の工藤かずやと『MASTER キートン』原作者の勝鹿北星は、『ゴルゴ 13』の脚本も手掛けてもいる（勝鹿北星はきむらはじめ名義）。大山(2000)は『パイナップル ARMY』について、「『ゴルゴ 13』からの流れを受け継ぐ戦闘技術に関するウンチクとアクションの切れ味に、浦沢タッチの人間ドラマを加味したところが特色ですね」と表している。

しかし、大山自身も述べているように、『パイナップル ARMY』の特徴は、その人間ドラマにある。『MASTER キートン』もまた同様である。2.2.節で挙げた『ブラック・ジャック』の系譜を受け継ぐ作品の諸特徴特徴 4. 「主人公は本来の依頼以外の問題をも解決する。」で『ブラック・ジャック』と『ゴルゴ 13』を区別したように、『パイナップル ARMY』『MASTER キートン』も『ゴルゴ 13』よりも『ブラック・ジャック』に近い作

品として見なす方が妥当であると考えられる。

4.2.浦沢直樹作品における手塚治虫の影響

浦沢直樹が手塚治虫の影響を受けたことは、本人自身の口から何度も語られている。浦沢は、ラジオ番組で手塚治虫の長女留美子との対談の中で、『鉄腕アトム』との最初の出合いについて、「5歳ぐらいの時に僕の親が買ってきたんです。でそれを模写して“手塚治虫”とサインまで練習してたんです。」と述べている。また、同じ番組の中では手塚治虫について「目指す所はそこで、そっち向かって歩いていけば間違いないというよな...生き方の、志向の指針というような感じでしたね。」とも述べている。ここから、浦沢直樹が手塚治虫から大きな影響を受けていることが分かる。

また、浦沢の作品『PLUTO』（2003-2009『ビッグコミックオリジナル』連載）は、手塚治虫作品『鉄腕アトム』の中の「史上最大のロボット」をリメイクしたものであり、初の「漫画を原作に描かれた漫画」として大きな話題を呼んだ。また、単行本第一巻ではブラック・ジャックとおぼしき人物の足だけが描かれたシーンもある。

4.3.三作品に見るブラック・ジャックの影響

この節では 2.2.節で挙げた、ブラック・ジャックの系譜を受け継ぐ作品の諸特徴を元に、『パイナップル ARMY』『MASTER キートン』『MONSTER』の主人公に見られるブラックジャックの影響について述べる。

特徴1. 主人公は天才的技能を持つ職人である、という点については、三者ともその条件を十分に満たしていると言える。

ジェド=毫士は元傭兵の戦闘インストラクターである。作品タイトル『パイナップル ARMY』の「パイナップル」とは、手榴弾の隠語であり、ジェド=毫士が爆発物のスペシャリストであることを象徴している。

平賀=キートン=太一は、腕利きの保険調査員であり、非常時には英空軍から招集がかかるほど信頼された元軍人であり、さらにオックスフォードを修了した考古学修士でもある。作品タイトル『MASTER キートン』は、喜劇俳優バスター=キートンのもじりであるが、「MASTER」の部分には「達人」という意味も込められている。

天馬賢三はドイツの病院に勤務する天才外科医である。勤務医と無免許医という違いはあるが、天才外科医という設定はブラック・ジャックと全く同じである。また、天馬という姓は、アトムの生みの親である天馬博士に由来する。

特徴2. 主人公は依頼を受けて世界各地を放浪する、という点については、天馬賢三のみが若干異なっている。

ジェド=毫士と平賀=キートン=太一は、それぞれ戦闘インストラクターと保険の調査員という職業柄、依頼を受けて依頼人の元に赴く。ジェド=毫士はアメリカを本拠地

としてはいるが、作品中では西欧やアフリカへも出掛けている。平賀＝キートン＝太一は、日本とイギリスの二箇所を拠点とし、ヨーロッパから中近東までが作品中の行動範囲である。

一方、天馬賢三はドイツとチェコを放浪するが、これは殺人犯の疑いをかけられたための逃亡であり、真犯人である殺人鬼ヨハンの追跡であって、依頼人の求めによるものではない。

特徴3. 主人公は依頼人と親密な関係になることを拒む、という点については、ジェド＝毫士のみがブラック・ジャックのスタイルを忠実に踏襲している。

ジェド＝毫士は、自分の仕事は戦闘インストラクターであり依頼人の戦いそのものには関与しないという建て前を表向き崩そうとはしない。ただし、依頼人が窮地に陥ったときにはその原則を破ることもしばしばある。

一方、平賀＝キートン＝太一は、笑顔をよく見せる人当たりのよいキャラクターになっており、依頼人が抱える問題に積極的に関与することも多い。

天馬賢三は逃亡者であり、仕事を依頼されることはないが、逃亡の過程で関わる人たちが困っているのを黙って見過ごすことのできないキャラクターとして描かれている。

特徴4. 主人公は本来の依頼以外の問題をも解決する、という点については、三者とも、ブラック・ジャックの系譜を継いでいる。

このように、ブラック・ジャックの持つ要素という観点から見えていくと、『パイナップル ARMY』『MASTER キートン』『MONSTER』と作品が新しくなるにつれて、主人公からブラックジャックの影響が次第に薄れていく様子が見てとれる。

4.4.原作者と浦沢の関係

前節で述べたように、『パイナップル ARMY』『MASTER キートン』『MONSTER』と作品が新しくなるにつれて主人公からのブラックジャックの影響は薄れていくが、これは、浦沢のオリジナル要素が強まっていくということでもある。このことは、漫画制作における原作者と浦沢の関係の変化からも確認できる。『パイナップル ARMY』『MASTER キートン』では原作の提供を受けているが、『MONSTER』では浦沢直樹単独作品となっているからである。

5.おわりに

このように三つの作品を比較してみると、浦沢直樹が次第にブラック・ジャックの影響から離れ、独自の作風を確固たるものにしていく過程が見られて興味深い。

4.2節でも述べたように、浦沢は 2003 年に『鉄腕アトム』をリメイクした『PLUTO』を発表した。漫画を原作に漫画を描くというのは前代未聞の試みである。筆者は、これを、しっかりとした独自性を確立したがゆえになせる浦沢の自信の表れのように思える。

参考文献

浦沢直樹(1985-1988)『パイナップル ARMY 1-5』ビッグコミックス

(1988-1994)『MASTER キートン 1-18』ビッグコミックス

(1994-2001)『MONSTER1-18』ビッグコミックス

(2003-2009)『PLUTO1-7』ビッグコミックス

大山ヒロオ(2000)『浦沢直樹の謎』コアラブックス

朝日放送(2005)『Earth Dreaming ～ガラスの地球を救え～』

<http://www.asahi.co.jp/50th/urasawa.html>

手塚治虫(1974-1995)『ブラック・ジャック』秋田書店

(2009/4/29 最終更新)「ブラック・ジャック」『ウィキペディア』

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ブラック・ジャック>